

Title	山本登名誉教授著作目録
Sub Title	A bibliography of the writings of Prof. Noboru Yamamoto
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1978
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.71, No.2 (1978. 4) ,p.294(204)- 301(211)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	山本登教授退任記念特集号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19780401-0204

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

山本 登名誉教授著作目録

著 書

- 『日本外地経済』 慶應出版社 (東京) 1940年12月
『植民政策』 慶應出版社 (東京) 1942年 8 月
『現代の日本経済』 金星堂 (東京) 1952年 3 月
『世界経済論』 慶應通信 (東京) 1956年 5 月
『アジア経済構造と地域協力の問題』 (エカフェ資料No. 11) 日本エカフェ協会 (東京) 1957年 7 月
『国際企業—国境のない会社—』 (日経新書52) 日本経済新聞社 (東京) 1967年 2 月
『四訂 世界経済論』 (第9刷) 泉文堂 (東京) 1977年 5 月

The Modernization of the Economy and Postwar Expansion (Changing Japan No. 2) (東京) 国際教育
情報協会 1973年

The Economy and Society of the New Japan (Japan Reference Series No. 1-75) (東京) 外務省広報
局 1975年

編 著

- 『ビルマの経済開発』 (研究調査報告双書) アジア経済研究所 (東京) 1961年 3 月
『アジア諸国経済開発の比較検討』 (研究参考資料第61集) アジア経済研究所 (東京) 1964年 1 月
(共編) 『欧州経済統合の分析と展望』 (国際研修図書・7) 日本国際問題研究所 (東京) 1964年 7 月
『南北問題と日本経済—国連貿易開発会議を中心として』 日本経済調査協議会 (東京) 1965年 5 月
(共編) 『世界経済の新段階—協力と統合へ 日本の進路—』 (日本経済の現状と課題 第8集) 春秋社 (東京)
1966年 3 月
『東南アジア開発と二重構造』 至誠堂 (東京) 1966年 5 月
『アジア経済開発のゆくえ—アジア太平洋圏の課題』 慶應アジア経済研究会 (東京) 1968年 5 月
『特惠のわが国産業・貿易構造に及ぼす影響』 世界経済研究協会 (東京) 1968年 7 月
(共編) 『南北問題の理論と現実』 (国際研修図書・10) 日本国際問題研究所 (東京) 1969年 3 月
『中ソ対立とアジア諸国』 (上) 日本国際問題研究所 (東京) 1969年10月
『ヴェトナム和平の経済的影響と東南アジア関係諸国』 世界経済研究協会 (東京) 1969年10月
(共編) 『東南アジア』 (地域研究講座・現代の世界 5) ダイヤモンド社 (東京) 1970年 9 月
『中ソ対立とアジア諸国』 (下) 日本国際問題研究所 (東京) 1971年 3 月
『アジア開発のメカニズム—貿易・援助編—』 アジア経済研究所 (東京) 1971年 3 月
『アジアの貿易』 ダイヤモンド社 (東京) 1971年 5 月
改訂 『現代世界経済—その理論と実態—』 世界書院 (東京) 1972年12月

山本 登名譽教授著作目録

- (監訳) キンドルバーガー著『外国貿易と国民経済』 春秋社(東京) 1965年10月
(監修) 『沖繩経済開発の基本方向』 日本経済調査協議会(東京) 1970年4月
(監修) 『パキスタン経済協力調査団報告』 外務省経済協力局 1970年10月
(監修) 『発展途上国の未来像と南北問題の展望—とくに日本を中心に—』 世界経済研究協会(東京) 1971年7月
(監修) 『タイ・マレーシア・シンガポール地域の開発と経済協力』 日本経済調査協議会(東京) 1972年7月
(監修) 『国際協調とわが国の進路—立体分業の展開のなかで』 経済審議会・国際協調研究委員会(東京) 1972年9月
(監修) 『地域間貿易の将来と日本』 (1985年の世界貿易第5巻) 至誠堂(東京) 1972年11月
(監修) 『貿易構造高度化への途』 日本貿易会(東京) 1974年12月

論 文

- 「貨幣の景気理論上に於ける金利の地位に就て」 『三田学会雑誌』 30巻 1936年3月
「景気循環と商品貯蔵量の関係」 『三田学会雑誌』 31巻 1937年2月
「植民地原料資源問題に関する一考察」 『三田学会雑誌』 32巻 1938年6月
「大英ブロック経済に於ける工業原料の自給性」 『三田学会雑誌』 33巻 1939年4月
「大英帝国の食糧自給性」 『三田学会雑誌』 34巻 1940年2月
「台湾経済の外地的性格」 『三田学会雑誌』 34巻 1940年9月
「大陸政策の展開過程」 (慶應義塾大学部設立50年記念論文集) 『三田学会雑誌』 34巻 1940年10月
「台湾農業再編成の問題」 『三田学会雑誌』 35巻 1941年5月
「台湾工業化問題の検討」 『三田学会雑誌』 35巻 1941年7月
「大東亜政策の経済的課題」 『三田学会雑誌』 36巻 1942年3月
「米国植民政策の欺瞞」 『新亞細亞』 (満鉄) 5巻 1943年3月
「南方資源研究の諸課題」 『三田学会雑誌』 37巻 1943年4月
「マライの財政及金融」 南方年鑑刊行会編『南方年鑑』 昭和18年版 マライ編 第4章・第2節 1943年8月
「東印度・統治史概要」 前掲『南方年鑑』 東印度編 第3章 1943年8月
「東亞広域経済の生成と課題」 本塾亜細亞研究所機関誌『亜細亞研究』 創刊号(財政経済時報 改題 30巻8号) 1943年9月
「朝鮮経済「基地的性格」の一断面」 『三田学会雑誌』 38巻 1944年1月
「戦時下の朝鮮工業」 本塾亜細亞研究所機関誌『亜細亞研究』 31巻9号 1944年1月
「朝鮮工業の再認識」 『国際経済研究』 5巻 1944年2月
「台湾経済の基地的性格」 『台湾公論』 9巻 1944年6月
「南方貿易の実態と特質」 『三田学会雑誌』 38巻 1944年7月
「南進基地性の性格」 『台湾公論』 9巻 1944年8月
「南方工業化への展望」 『国際経済研究』 5巻 1944年10月
「外地経営の根本的性格—反省への一試論」 『三田学会雑誌』 39巻 1946年5月
「戦後世界植民地問題の所在点」 (慶應義塾90周年記念論文集) 『三田学会雑誌』 40巻 1947年10・11・12月
「世界経済よりみたる戦後の米ソ関係」 『三色旗』 5号 1948年8月
「アジア経済復興への展望」 『三田学会雑誌』 42巻 1949年2月

- 「アジア資源問題の輪廓」『世界経済』1950年1月
「アジア貿易の分析と展望」『三田学会雑誌』43巻1950年9月
「戦後世界経済の動向と日本貿易」『三色旗』33号1950年12月
「日本の経済自立と貿易問題」『三色旗』37号1951年4月
「講和後の日本経済とアジア経済」『三色旗』49号1952年4月
「二つの体制の対立と世界景気」『エコノミスト』30(18)1952年
「東南アジア経済開発問題に関する一考察」『三田学会雑誌』45巻1952年7月
「中共と貿易問題」『三色旗』53号1952年8月
「西独輸出貿易の秘密を探る—生産財輸出の分析」『エコノミスト』31(51)1953年
「西独における東西貿易論」『エコノミスト』32(42)1954年
「コロンボ計画の世界経済的意義」『アジア問題』3(1)1955年1月
「わが国貿易の現況と将来」『三色旗』91号1955年10月
「西独鉄鋼業の復興過程」『三田学会雑誌』48巻1955年12月
「アジア諸国の経済協力問題について」『外政』(1)1956年1月
「マライの経済開発計画と問題点」『アジア問題』4(3)1956年3月
「東南ア政策をどう進めるべきか」『エコノミスト』34(12)1956年
「貿易自由化とアジアの経済開発」『金融経済』(37)1956年4月
「後進国経済開発と世界市場」『世界経済評論』(29)1956年9月
「アジアの経済構造と共産主義—アジア経済の構造的調整をめぐる」『アジア問題』5(6)1956年12月
「アジア経済協力の問題点—経済協力の前提条件—」『アジア問題』6(3)1957年3月
「欧州共同市場成立の世界経済的意義」『三田学会雑誌』50巻1957年5月
「アジアの地域協力と共同市場問題」『アジア問題』6(6)1957年6月
「欧州共同市場計画と日本経済」『世界経済評論』(39)1957年8月
「世界の景気変動と西欧経済の動向」『経済往来』19(9)1957年9月
「西欧共同市場の経済的基盤」(赤松要博士還暦記念論文集)『経済政策と国際貿易』春秋社1958年1月
「安定市場の追求不十分—「経済白書」貿易部門批判—」『経済セミナー』(21)1958年8月
「世界景気の回復には貿易拡大が先決—国連1957年次経済報告—」『東洋経済』(2843)1958年
「世界経済体制の再調整期」『三田学会雑誌』51巻1958年3月
「インドの輸入動向と日本の対印輸出」; 日本貿易研究会編『日本貿易の計量的研究』日本評論新社1958年10月
「世界百年の歩み・経済—先進国と後進国の拮抗」『三色旗』128号1958年11月
「戦後における後進諸国の新状況と将来—先進国と後進国の戦後の諸関係」『経済評論』7(13)1958年12月
「地域経済協力機構の問題」; 日本エカフェ協会編『アジア経済発展の基礎理論』中央公論社1959年6月
(共稿)「植民政策・世界経済論・国際経済学」慶應義塾創立百年記念慶應義塾大学経済学会編『日本における経済学の百年』上巻 日本評論新社1959年7月
「わが国対東南アジア経済協力の新段階」『三田学会雑誌』52巻1959年9月
「世界経済の転回点—自由化かブロック化か」『世界経済評論』(57)1959年12月
「戦後世界経済における経済統合の発展」『世界経済評論』(61)1960年4月
「低開発国経済開発問題の意義と性格」『国際問題』第2号、1960年5月
「自由化への貿易政策の特質と志向」『経済セミナー』(46)1960年8月
「低開発国の景気動向に関する一考察」『世界経済評論』(68)1960年11月
「アジアにおける地域的経済統合の可能性」『三田学会雑誌』53巻1960年12月

山本 登名著教授著作目録

- 「日本経済の世界性」；経済主体性講座 第7巻 中央公論社 1960年11月
- 「低開発国問題の諸局面」『国際問題』第9号 1960年12月
- 「資本主義諸国の低開発国援助の動向と問題点」『アナリスト』7(1) 1961年1月
- 「世界経済からみた日本企業の海外進出」『生産性』(166) 1961年2月
- 「経済統合—Regional Economic Integration を中心として」；講座国際経済 第一巻『現代世界経済論』(1-4) 有斐閣 1961年9月
- 「東南アジア経済開発上の問題点」『三田学会雑誌』54巻 1961年10月
- 「ヨーロッパ統合の新段階と世界経済」『世界経済評論』(80) 1961年11月
- 「東南アジア経済開発と東西援助の課題」『アジア経済』3(1) 1962年1月
- 「EECとアジア経済—アジアの経済調整への途—」『経済往来』14(3) 1962年3月
- 「アジア経済協力機構の可能性と問題点」『貿易と関税』10(4) 1962年4月
- 「アジア共同市場の可能性と問題点」；大来佐武郎編『アジアにおける経済統合の可能性と条件』アジア経済研究所 1962年8月
- 「低開発国の景気動向」『金融ジャーナル』3(12) 1962年12月
- 「東南アジアの新情勢と北ヴィエトナム経済」『三田学会雑誌』56巻 1963年2月
- 「低開発国統合問題の世界経済的背景」『世界経済評論』7(4) 1963年4月
- 「国際機関への参加—先進国になった日本—」『貿易と関税』12(1) 1964年1月
- 「低開発国問題の新展開」『世界経済評論』8(1) 1964年1月
- 「戦後世界経済の諸特徴」『三田学会雑誌』57巻 1964年3月
- 「国連貿易開発会議の背景と意義」プレビッシュ報告・『新しい貿易政策を求めて』国際日本協会 1964年4月
- 「日本経済の対外的進路—開放経済体制において—」『三色旗』193号 1964年4月
- 「低開発国問題の意義と展望」『世界経済評論』8(11) 1964年11月
- 「南北問題の新展開と日本の進路」『海外技術協力』 1965年1月
- 「アジアの新情勢と日本の役割」；季刊『社会科学』6号 アジアの安定 経済往来社 1965年2月
- 「日本の海外経済協力の現状と展望」『アジア研究』11(4) 1965年
- 「転機に立つ世界貿易と日本の進路」『国際経済』16 1965年
- 「戦後世界経済の発展と国際経済協力機構」『世界経済評論』9(11) 1965年11月
- 「1966年世界経済の展望」『国際問題』第70号 1966年1月
- 「アジアの地域経済協力問題—共同開発核の構想—」大来佐武郎編『低開発国の貿易と開発』日経研センター双書3 日本経済新聞社 1966年3月
- 「南北問題と東南アジア経済—一つの政策論的アプローチ—」『三田学会雑誌』59巻 1966年4月
- 「自由化と地域化を軸として—世界経済の新潮流」『エコノミスト』45(24) 1967年
- 「太平洋経済圏諸国の貿易促進について—南北問題の視点よりの一考察」読売・国際関係委員会 1969年5月
- 「南北問題と太平洋経済圏」(寺尾琢磨教授退任記念特集号)『三田学会雑誌』62巻 1969年8月
- 「特惠問題と企業進出」『貿易と関税』17(12) 1969年12月
- 「アジア経済開発の現状と課題」『世界経済評論』14(1) 1970年1月
- 「東南アジア経済協力の方向」『現代政治』 1970年4月
- 解題「第二次国連開発10年の構想と意義」外務省監訳『ティンバーゲン報告・70年代の開発戦略』国際日本協会出版局 1970年6月
- 「アジアの新情勢と日本の経済協力の志向」『三田学会雑誌』63巻 1970年7月
- 「南北問題と日本経済」『国際時評』 1970年9月

- 「南北問題とアジア」『社会科教室』1971年9月
「転機に立つ日本の経済外交」『公明』1971年12月
「アジアの新情勢と地域協力問題」『よみうり会報』2号 1972年3月
「南北問題の進展とアジア」『海外事情』20(3) 1972年3月
「南北問題の新たな展開と進路」『経済論壇』18(3) 1972年3月
「東南アジア大学の現況と胎動」民主教育協会誌『IDE』125号 1972年4月
「南北問題の進展とアジアの地域主義」『三田学会雑誌』65巻 1972年5月
「東南アジア諸国の発展」(話の広場)『アジ調月報』1972年5月
「流動する世界経済とアジア・日本」『三田評論』1972年5月
「世界史における南北問題」川野重任先生還暦記念『アジアの近代化』東京大学出版会 1972年8月
「南北問題の進展とアジア地域主義」『アジア発展への途—開発教育の未来像を求めて』アジア学生代表者会議編 1972年11月
「ベトナム和平とアジア・日本」『海外事情』21(3) 1973年3月
「アジア安全保障体制の構想」(話の広場)『アジ調月報』36号 1973年4月
「転機に立つ東南アジア」『東洋産業経済新聞』1973年8月11日号
「東南アジアにおける小国の在り方」『国際問題』第162号 1973年9月
「危機感の中の国際政治と日本の対応」(経済問題)『公明新聞』1974年1月26日号
「ベトナム和平後の東南アジア」『外交春秋』第234号 1974年1月
「東南アジア経済の現況と課題」『言論人』No. 224 1974年2月
「東南アジアの現況と日本の協力姿勢」『海外事情』22(3) 1974年3月
「東南アジアの開発と日本の立場」『三田評論』第736号 1974年4月
「第30回ECAFE総会の成果と課題」『20世紀』9(5) 1974年5月
「国際協力の新方向」『国際協力』No. 241 1974年10月
「石油危機後の世界経済と第3世界の命運」『経済論壇』(20-11) 1974年11月
「世界経済秩序と多国籍企業—新世界経済秩序の模索のなかで」『多国籍企業の経済と経営』日経調 1974年11月
「国際関係の中での援助の役割」『国際問題』第180号 1975年3月
「資源問題の世界政治・経済学—日本の立場を含めて—」(特集 赤松要博士追悼号「国際経済学の現代的課題」)『海外事情』23(6) 1975年6月
「激動するアジアと中ソ対立」『総合月刊にっぽん』1975年9月
「南北問題の進展と日本のアプローチ」『経済論壇』21(10) 1975年10月
「発展途上諸国一次産品問題」(総論)『発展途上諸国一次産品問題調査』国際開発センター 1976年3月
「新国際経済秩序と多国籍企業」監修『多国籍企業の経済』ダイヤモンド社 1976年3月
「経済協力の構造と改革の視点」『公明』No. 168 1976年3月
「ASEANをめぐる東南アジアの新情勢」(アジア経済人クラブ)『アジアフォーラム』1976年3月
「南北問題の趨勢と東西問題」『海外事情』24(3) 1976年3月
「国際経済協力会議開催の意義」『20世紀』11(3) 1976年3月
「国際化の促進のために」(国際化と私立大学の役割)『大学時報』No. 128 1976年5月
(総論)「コロンボ宣言の意義とわが国の対応」月刊『価値ある情報』ダイヤモンド社 1976年9月
「東ドイツ瞥見」『太平洋経済(Pacific E. Review)』155号 1976年10月
「77年の世界経済を左右する要因は何か」月刊『価値ある情報』ダイヤモンド社 新年特大号 1976年12月
「日本の資源外交はどうあるべきか」『公明』No. 180 1977年2月

山本 登名誉教授著作目録

- 「南北問題の進展とアジアにおける日本の役割」『海外事情』25(3) 1977年3月
「世界経済の再編成期」『海外事情』26(3) 1978年3月

英字論文

- (論文) "Japan's Economic Position in Southeast Asia" (*Weltwirtschaftliches Archiv*, Band 91, Heft 1. 1963)
- (論文) "Problems of Regional Economic Cooperation and Common Market in Asia" (*Asian Aff.* 2(3) Sept. 1957)
- (論文) "New Phases of Assistance to Underdeveloped Countries" (*The Japan Annual of International Affairs*, No. 1 (1961))
- (論文) "Economic Development in Southeast Asia and East-West Economic Assistance" (*The Japan Annual of International Affairs*, No. 2(1962))
- (論文) "The Possibility of Regional Economic Integration in Southeast Asia" (*The Developing Economies*, 2(1), March 1964)
- (論文) "Problems of the Japanese Joint Venture in South Eastern Asia" (Tokyo, June 1966)
- (講演) "The Japanese Economy and the S-E Asian Countries" (J. C. C. of Hong Kong, March 1971)
- (講演) "Economic Relations between S-E A and Japan" (*New Asia College*, April 1971)
- (研究報告) "The Economic Development of Asia and the Role of Japan" *New Directions in the International Relations of Southeast Asia* by Institute of Southeast Asian Studies, 3-8 July 1972. (Singapore)
- (論文) "The Framework of Regional Integration for S-E A Countries" (*CERES, FAO Review*, 5 (V) Sept.-Oct. 1972)
- (論文) *A New Direction of International Cooperation* (パンフレット) ベルギー王立国際関係研究所 (1975年4月)
- (論文) "Southeast Asia and Japan after the Vietnam War" (*YOMIURI International Economic Society Bulletin*, No. 22 (1975. 8.))
- (論文) "World Economy and the Destiny of the Third World after Oil Crisis" (*Studio Diplomatica*, vol. XXIX No. 2, 1976)
- (論文) "Economia e Società del nuovo Giappone (Parte I & Part II)" (Translation of "The Economy and Society of the New Japan" ed. by Ministry of Foreign Affairs, 1975) "GIAPPONEOGGI" Periodico Dell' istituto Italo-Giapponese per gli Affari Economici Vol. 2 Nr. 1 & 2-3. MILANO

書評・随想その他

- (書評) Ralph H. Blodgett, *Cyclical Fluctuations in Commodity Stocks*, 1935 『三田学会雑誌』29巻 1935年8月
- (書評) J. M. Clark, *Strategic Factors in Business Cycles*, 1934 『三田学会雑誌』29巻 1935年12月
- (書評) B. P. Adarkar, *The Theory of Monetary Policy*, 1935 『三田学会雑誌』30巻 1936年6月
- (書評) Dr. G. Kurt Johannsen and H. H. Kraft, *Germany's Colonial Problem*, 1937 (*Das Kolonial Problem Deutschlands*, 1936) 『三田学会雑誌』31巻 1937年12月

- (書評) Robert R. Kuczynski, *Colonial Population*, 1937 『三田学会雑誌』 32巻 1938年1月
- (書評) 「ドイツの植民地問題に関する二著」 『三田学会雑誌』 32巻 1938年4月
- (書評) Maxwell H. H. Macarthey and Paul Cremona, *Italy's Foreign and Colonial Policy (1914-1937)*, 1938. 『三田学会雑誌』 32巻 1938年9月
- (書評) H. S. Ashton, *Clamour for Colonies*, 1936 『三田学会雑誌』 32巻 1938年11月
- (書評) H. R. Rudin, *Germans in the Cameroons, 1884-1914 (A Case Study in Modern Imperialism)*, 1938 『三田学会雑誌』 33巻 1939年3月
- (書評) H. L. Shapiro, *Migration and Environment*, 1939 『三田学会雑誌』 33巻 1939年7月
- (書評) Oswald Dutch, *Germany's Next Aims*, 1939 『三田学会雑誌』 33巻 1939年9月
- (書評) Evans Lewin, *The Germany and Africa*, 1938 『三田学会雑誌』 33巻 1939年12月
- (書評) A. J. P. Taylor, *Germany's First Bid for Colonies, 1884-1885. (A Move in Bismarck's European Policy)* 1938 『三田学会雑誌』 34巻 1940年1月
- (書評) E. スターレー著『平時並に戦時における原料問題』—E. Stalley; *Raw Materials in Peace and War*, 1937 (邦訳名…山田文雄訳『国際原料資源論』) 『三田学会雑誌』 34巻 1940年5月
- (書評) チャールス・スミス著『英国食糧補給問題』 『三田学会雑誌』 35巻 1941年2月
- (書評) E. B. ディートリッヒ著『アメリカの極東貿易』 『三田学会雑誌』 35巻 1941年3月
- (書評) 川野重任著『台湾米穀経済論』—日本学術振興会第21小委員会報告— 『三田学会雑誌』 35巻 1941年4月
- (書評) 台湾経済年報刊行会編『台湾経済年報』(昭和16年版) 『三田学会雑誌』 35巻 1941年8月
- (書評) T. A. ビソン『最近における米国の対東亜政策』 『三田学会雑誌』 36巻 1942年1月
- 「岩田似教授の急逝を悼む」 『三田学会雑誌』 37巻 1943年1月
- (書評) ヴァルガ『戦後世界工業発展の動向』 『三田学会雑誌』 39巻 1946年3月
- (書評) ヴァルガ著・広島定吉訳『ドイツ帝国主義の歴史的特殊性』 『三田学会雑誌』 40巻 1947年1月
- (資料) アメリカの貿易政策と世界経済 『三田学会雑誌』 40巻 1947年5月
- (書評) アメリカ経済に関する三小著 『三田学会雑誌』 40巻 1947年6月
- (書評) Bruno Lasker, *Asia on the Move*, 1945 『三田学会雑誌』 42巻 1949年5・6月
- (書評) L. A. ミルズ編『東南アジアの新しい世界』 『三田学会雑誌』 45巻 1952年1月
- (書評) 『JAPAN und die Vereinigten Staaten』 ed. by E. D. Reischauer and Others. *Weltwirtschaftliches Archiv*, Band 72 Heft 2 1954
- (随想) 「一米婦人の手紙から」 『三色旗』 112号 1957年7月
- (随想) 「クリスマスと正月」 『三色旗』 142号 1960年1月
- (随想) 「ダッグアウトの内と外」 『三色旗』 149号 1960年8月
- (随想) 「思いつくまゝ—海外旅行・生活の体験から—」 『三色旗』 1962年1月
- (書評) 板垣与一著『アジアの民族主義と経済発展—東南アジア近代化の起点—』 『三田学会雑誌』 55巻 1962年7月
- (随想) 「“どてら”の思い出二つ」 『三色旗』 183号 1963年6月
- (随想) 「ブラジリア雑感」 『三田評論』 621号 1963年12月
- (書評) 『アジア経済の長期展望』 アジア経済研究所研究参考資料第68集 『三田学会雑誌』 57巻 1964年12月
- (随想) 「優勝」 『三色旗』 202号 1965年1月
- (対談) 「南北問題の焦点」 『金融界』 1967年11月
- (座談会) 「アジアと日本の経済協力」 『三田評論』 691号 1970年3月

山本 登名誉教授著作目録

- (随想)「異国の丘」『三色旗』266号 1970年5月
(対談)「国際協調・日本の活路」『世界経済評論』16(1) 1972年1月
(巻頭言)「南北問題とアジア」『世界経済評論』16(2) 1972年2月
「世界経済と日本」各年経済・貿易見通し 『貿易と関税』20(3)1972年3月～26(3)1978年3月(毎年3月号所載)
「香港出講の思い出」『月刊健康』(97号)1972年4月
「テキストの周辺13『世界経済論』(通信教育教材)『三色旗』291号 1972年6月
(座談会・司会) <シンポジウム>多極化時代の日本外交『国際問題』(創刊150号記念特集) 1972年9月
「国際センターの窓口から」『慶應義塾大学報』1972年10月
(座談会)「外国語と私」『三色旗』296号 1972年11月
(座談会)「小泉信三全集の完結」『三田評論』(721号) 1972年12月
「菊池先生の思い出」一幼稚舎時代 『ぬはり』1972年12月
(座談会)「南北問題の新たな視角」『国際開発ジャーナル』1973年1月
「私の読書遍歴」『三色旗』299号 1973年2月
(巻頭言)「ベトナム和平の成立とアジア」『世界経済評論』17(3)1973年3月
「わたしの経験から」(外国人学者の受入れ) 『FIDE』(135号) 1973年3月
「明日の日本経済のゆくえ」(特別対談 岩佐凱実)『月刊ペン』6(11) 1973年11月
「山本登君に聴く」『塾』(No. 63号) 1974年1月
(書評)川喜多二郎著『海外協力の哲学』『アジア』9(7) 1974年7月
「学術研究体制の整備と私大の財政問題」『学術月報』27(5) 1974年8月
(巻頭言)「資源問題と多国籍企業」MNEレポート 1(2) 1974年12月
追悼「故赤松要先生を悼む」『世界経済評論』19(2) 1975年2月
(巻頭言)「資源問題と国際協力の方向」『世界経済評論』19(3) 1975年3月
(巻頭言)「わが国海外経済協力の実態と課題」『日経センター会報』246号 1975年4月
(書評)原覚天『アジア経済発展論』『日本経済新聞』1975年5月18日号
特集 ベトナム後の東南アジアと日本「新しいアジア情勢と日本」『読売国際経済懇談会会報』22号 1975年7月
(社説)「東南アジアの新情報と日本」(アジアの興隆にける橋)『東洋産業経済新聞』1975年8月11日号
(司会)甥・姪たちが語る「素顔の小泉信三」(歿後10年記念特集 小泉信三 人と学問)『泉』No. 12 1976年5月
(書評)西川潤『経済発展の理論』『公明』(No. 172号) 1976年7月
(社説)「分裂国家での体験から」—東ドイツの国際経済円卓会議に出席して 『東洋産業経済新聞』1976年9月11日号
(巻頭言)「世界政治経済の変転と中間国・日本」『世界経済評論』21(2) 1977年2月
(アンケート)フレッシュマンに是非読んでもらいたい本 『東洋経済』4(16) 1977年
(巻頭言)「『経済大国』と『貿易大国』のひずみ」『世界経済評論』22(2) 1978年2月
(随想)「資源問題への『夢想』」『大学世界』1(3) 1978年3月